情報空間上の街
―実空間とのあいだに見られる類似と差異―

City of the information space

－Similarity and difference compared with the real space－

02-2000-3　半田恭大　　Yasuhiro Handa
指導教員　土肥真人 Adviser Masato Dohi

１．はじめに

高度情報化社会は空間と空間のあいだに劇的な時間距離の短縮をもたらした。従来、実際に対面することでしかできなかったコミュニケーションは、様々なメディアや技術の誕生、発展、さらにはインターネットの登場によって、時間的空間的制約から解放され多様な手段をとることが可能になった。情報化の発達により、様々な場所の情報が即時に伝達され、人々は外出せずに街の情報を得ることが可能となった。すなわち、情報空間上に街が出現したと言える。

2003 年の登場以降、若者を中心に急速に広まりつつある SNS（Social Networking Service）は、これまでのインターネットの特徴でもある匿名性を排除した画期的なオンラインサービスである。本研究では、日本最大の SNS である mixi に設置されている「コミュニティ」機能の分析を通し、情報空間上で街はどのように扱われるか、街でないものはどのように扱われるか（空間の持つ特性とは何か）、実空間上と情報空間上の街の現れの違いはどこにあるかを探ることを目的とする。

研究の構成は 2 章で情報空間上における「コミュニティ」の展開を、3 章で mixi に現れる空間「コミュニティ」の分析、4 章で mixi に現れる非空間「コミュニティ」の分析を行い、5 章で情報空間と実空間との比較を行い、6 章で結論を述べる。

２．情報空間上における「コミュニティ」の展開

２－１　「コミュニティ」の定義域

従来型のコミュニティは、家、学校、地域などという空間的要因、外部要因によって半ば強制的に規定されていた。それは自分で選ぶことのできない、与えられた名前、身体、環境に基づくものであった。対して、近年発達しているのは人々のニーズに合わせた形で構築されるような「コミュニティ」である。それはネット上で交わされるよう、ある共通の趣味や話題に基づき、空間的制約を持たず、自由に選択が可能である。

前者のコミュニティに対する後者の「コミュニティ」を、先天的に対して後天的、空間的に対して非空間的、非選択的に対して選択的、リアルに対してバーチャルと位置づけできる。

２－２　情報空間における「コミュニティ」の変遷

日本における情報空間における「コミュニティ」の変遷を 1990 年代前半、インターネットの普及前に全盛だったパソコン通信時代からたどる。インターネット黎明期から存在していた BBS、ML、チャットなどの「コミュニティ」ツールは 1990 年代半ば、インターネットが一般にも普及したことで、脚光を浴びるようになった。2000 年代に入りブロードバンドが急速に普及し、IM、ブログ、SNS など、「コミュニティ」ツールの多様化の流れは加速度を増した。2006 年 2 月現在、国内最大ユーザー数を持つ SNS、mixi の登録者は 300 万人を突破する（退会者、二重登録者を含む）。

３．mixi に現れる空間「コミュニティ」

３－１　目的と分析方法

mixi の「コミュニティ」機能の分析を通して情報空間上に現れる街の姿とその現れ方を概括する。分析の対象とするのはカテゴリ「地域」に属する「大岡山」「目黒区」「東京」の「コミュニティ」である。これらを「情報空間上の街」と定義する。

「コミュニティ」の主要機能である掲示板のすべての書き込みから固有名詞を拾い上げ、各名詞についての発言者数をカウントする。また、同一書き込み内において並列的に出てきた固有名詞同士を線で結んだものの集合体を相関図としてまとめる[図１]。

この作業を４か月毎のタームで区切り 2005 年 12 月末まで繰り返し行い、更新情報を時系列の流れが分かるよう履歴的に重ねて表示する。

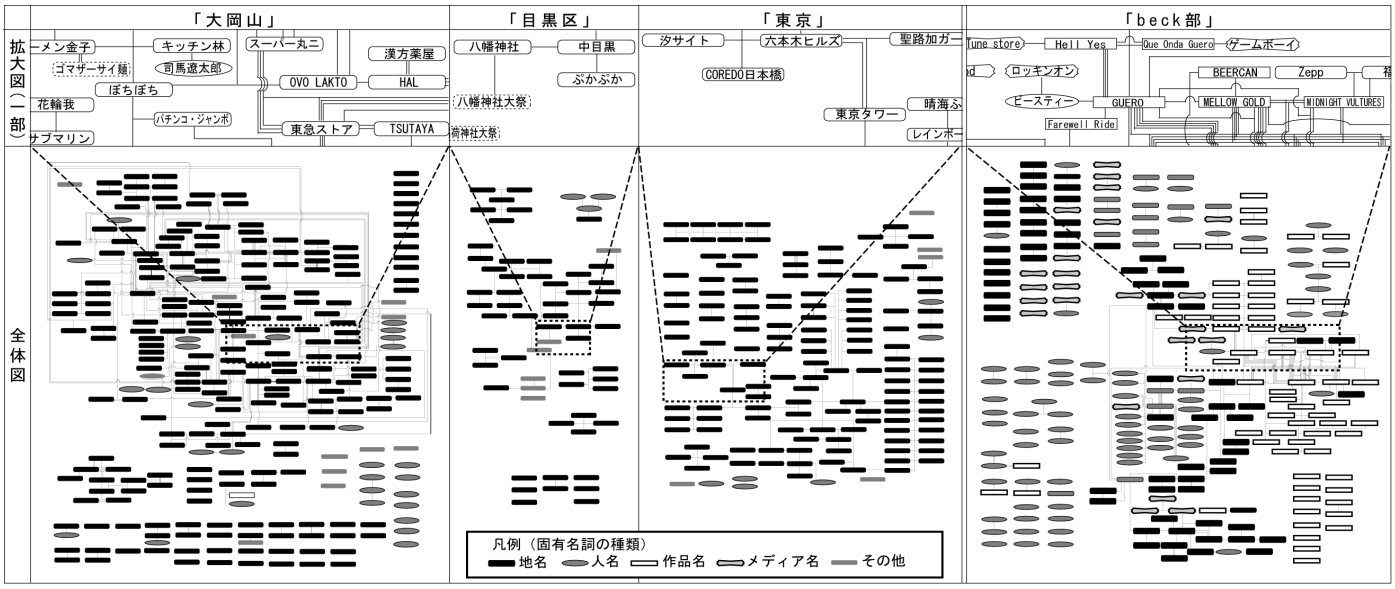
３－２　分析結果

登場した固有名詞の数およびその発言者の総計を種類別に分類したものを[図２]に示す。登場する固有名詞を５つのタイプに分け、さらに地名を空間の大小別に５段階に分類して示す。分類の仕方は、

レベル１：店や施設など、地図上に「点」で表示できる場所
レベル２：駅を中心とする商業圏
レベル３：行政区レベル
レベル４：都道府県レベル
レベル５：国レベル

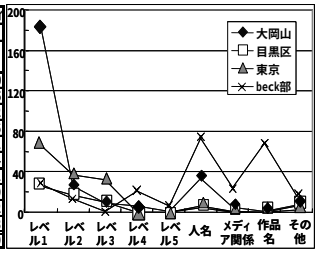
と設定する。なお、分析の対象とする「大岡山」、「目黒区」、「東京」はそれぞれレベル２、レベル３、レベル４に該当する。

結果から、地名を冠する空間「コミュニティ」では登場する固有名詞のうち、地名の割合が圧倒的に高いことが分かる。レベル２の「大岡山」では出てくる地名はレベル１のものが圧倒的に多い。レベル３、４の「目黒区」や「東京」では、レベル１の地名がもっとも多く登場し、以後レベルが上がるにつれ登場する地名が逓減し、レベル４、５の発言はほとんど見られない。このグラフの形自体は「大岡山」と類似しているが、その発言者の全体数は、「大岡山」に比べかなり少ないことが言える（掲示板の活性度が低い）。



[図１]「コミュニティ」別相関図

		空間コミュニティ						非空間コミュニティ	
		大岡山		目黒区		東京		beck部	
		登場数	発言者数	登場数	発言者数	登場数	発言者数	登場数	発言者数
地名	レベル1	182	632	26	36	66	86	28	60
	レベル2	26	92	17	26	37	65	13	25
	レベル3	9	29	10	20	32	37	1	2
	レベル4	6	10	0	0	0	0	21	76
	レベル5	1	1	0	0	0	0	6	31
	計	224	764	53	82	135	188	69	194
人名		33	46	4	4	6	6	73	111
メディア関係		5	5	0	0	1	1	24	59
作品名		1	1	0	0	0	0	68	272
その他		7	7	6	6	2	2	16	83
計		270	823	63	92	144	197	249	719



[図２]固有名詞分類別登場数と発言者数

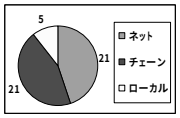
４．mixi に現れる非空間「コミュニティ」

４－１　目的と分析方法

分析の対象とするのは「大岡山」と同程度の登場固有名詞数、発言者数を持ち、カテゴリ「音楽」に属する「beck 部」の「コミュニティ」である。実際の空間が、言語というフィルターを通して情報空間上にどのように現れるのかを概括した３章の分析を踏まえ、実体のないものを情報空間で扱った際にどのような現象が観察されるのかを探る。分析方法は３章と同様である。

４－２　分析結果

登場する固有名詞は地名、人名、作品名がほぼ同数で並ぶが、発言者をもっとも多く集めているのは作品名であり、地名、人名がそれに続く[図２]。CD や関連グッズを販売する店の情報が登場するが、実空間を持つ店舗の情報は少なく、チェーンストアやネットストアについての発言が多い[図３]。



[図３]店舗別発言者数

[表１]地名の結びつき

線のタイプ	線の数
地名－地名	53
地名－作品名	8
地名－人名	2
地名－メディア	6
地名－その他	14

空間「コミュニティ」で空間の話題（地名）が多く出てきたのと同様、非空間（音楽）「コミュニティ」では音楽の話題（人名や作品名）が多く、地名は地名同士のように、各固有名詞は同種間の結びつきが強いことが分かる[表１]。

空間「コミュニティ」において登場する大部分の地名が「コミュニティ」内部に包含されたのに対し、非空間「コミュニティ」において登場するのは空間的制約のない、「コミュニティ」名に関連したリンクの集積である。音楽作品のように beck の一部であると考えられるものもあれば、地名や他のアーティスト名、CD ショップ名などのように、相互に何かしらの関係や影響こそ与えるものの、「beck」という枠内には収まらない種類のものもある。

また、空間「コミュニティ」には地名で分節化された空間が存在するのに対して「beck」の存在は決して不動点ではない。アメリカ在住であるそのアーティストは、ライブで来日することもあれば、音楽という形をとって世界各地の空間に現れることもある。「beck」という人間、あるいはその音楽を媒介項にして、空間と空間とのあいだにつながりが生まれている。

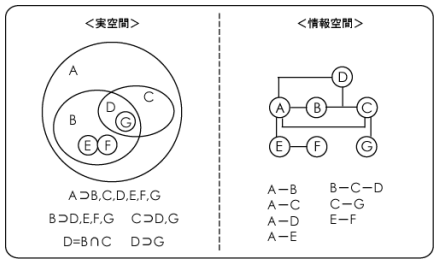
５．実空間との比較

３、４章の結果から出てきた各地名をそれぞれ地図上に配置することで実際の空間との重ね合わせを行い、その傾向や特徴を把握し、情報空間上の街と実空間上の街との類似と差異について考察する。

情報を地図という実空間の平面に可視化することによりスケールの概念が発生し、直感的・視覚的な情報認知の枠組みが提供されることになる。

地図上からは、各地名の大小関係、包含関係などが読み取れる。実空間上で各々の地名は互いに領域を決定したり、包含関係が幾層にも重なり合って複雑な構造をつくりだしている[図４]。一方で、情報空間上では空間の大小に関わらず地名はすべて等価に扱われ、相互に連関しながら出現している[図１]。

地図の一部分を切り取って見たとき、そこには部分的にツリーの関係が見て取れる。しかし、地図上（実空間上）には包含関係で現れていても、掲示板の中の発言（情報空間上）では関係の見られない場所同士もある。意見の集合体として「コミュニティ」を概観したとき、そこに見られるのは、全ての地名が名詞としていっせいに表示され、かつそれらが複雑な階層構造を示さずに通覧できる全体図であったが、地図という実空間を表現するツールを用いたとき、そこに空間の大小や包含関係、地理的な条件が加味されることになる[図５]。



[図５]概念図

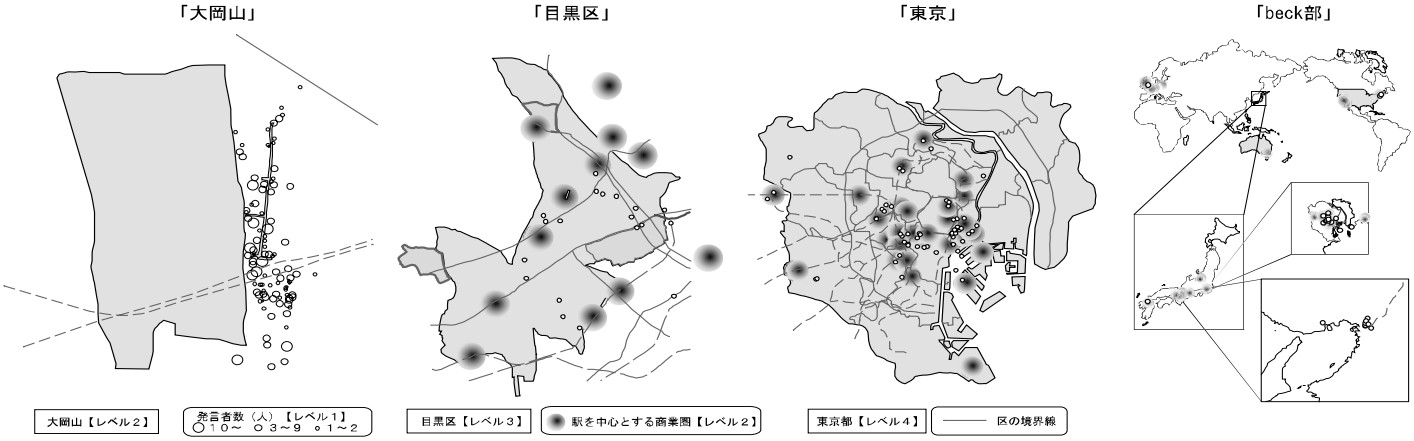
６．結論

１．空間「コミュニティ」では、登場する固有名詞のうち地名の出てくる割合が圧倒的に高く、非空間「コミュニティ」では地名以外の固有名詞が多く登場する。

２．実空間上での地名には常に空間の大小や包含関係、地理的な条件が伴うが、情報空間上で地名は等価に出現し、それらの関係性を必ずしも反映しない。

３．「大岡山」規模（レベル２）の街が情報空間上ではもっとも多くの発言者数を集め、この規模の街を「情報空間上の街」と定義できるのではないか。

【主要参考文献】
「バーチャル・コミュニティ」ハワード・ラインゴールド　会津泉訳・三田出版会、1995



[図４]「コミュニティ」別地図